

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【辻小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語「我が国の言語文化に関する事項」について課題がみられる。授業内のみならず、生活と関連付けながら、日本語や言語文化についての知識について理解を深めていく必要があると考えられる。また、高学年における社会・理科において基礎基本となる知識の定着が課題であることが分かった。児童が興味関心をもち、繰り返し内容に触れることができるような授業展開を考えて取り組んでいく必要があるといえる。
思考・判断・表現	国語科において3・4年生においては「読むこと」、高学年においては「書くこと」に課題があることが分かった。主人公の心情を考たり、自分の思いを言葉にして表現したりすることはこれからも本校の課題となる。来年度も学校課題研究の中心として、国語科を中心とした児童の「思考力・判断力・表現力等」を高める指導や手立ての工夫について全校を挙げて取り組んでいく必要があるといえる。
主体的に学習に取り組む態度	どの教科においても高学年になるにつれて「その教科が好きですか」の質問に対してどの教科の回答も肯定的な回答の割合が下がっている。児童が興味関心をもって、学びに対する必然性を感じることができるような授業展開を工夫したり、学びと生活や次の学びにつながっていくことを実感できるような手立てを工夫することで、少しでも児童の学びへの意識を高めることが今後の課題だといえる。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和4年度さいたま市学力調査の自校結果より、算数「数量や図形」についての知識・技能」の項目を1pt向上させる。	⇒ 授業において既習事項を確認し、それを活かした解法を考える習慣をつける。また、ICT機器を活用することで視覚からの理解を深め、繰り返し知識を活用した問題を解く機会を増やし、知識の定着を図る。
思考・判断・表現	令和4年度さいたま市学力調査の自校結果より、国語科における「思考・判断・表現」の項目を1pt向上させる。	⇒ これまでの学校課題研究による成果を活かし、「より深い学びにつながる児童の発言に対する切り返しの充実」課題を明確にした授業づくりと振り返りの充実」を国語科においても全校で取り組んでいく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にさせる。	⇒ 授業を組み立てる際に、系統立てを意識した上で、解決したくなるような課題設定を考える。PBLを意識した授業展開を考え、主体的な学びを進められるようにする。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和4年度さいたま市学力調査の自校結果より、算数「数量や図形」についての知識・技能」の項目は学校平均+1.5ptを達成した(3年+1.2pt,4年+2.9pt,5年+0.7pt,6年+1.3pt)。算数の知識・技能についてはどの項目についても前年度や市平均よりも高い数値が多く、手立てや継続的な指導が結果に結びついたのではないかと考えられる。	A
思考・判断・表現	令和4年度さいたま市学力調査の自校結果より、国語科における「思考・判断・表現」の項目は学校平均+1.1ptを達成した(3年+2.5pt,4年+1.0pt,5年+0.7pt,6年+0.3pt)。学校課題研究として取り組んできた手立ての数々が成果となりこの結果となったと考えられる。	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は86%となった(取り組んでいた:29%、どちらかといえば取り組んでいた:57%)。学校課題研究の手立てとして学習課題を意識した授業計画を、全校一丸となって取り組んだ結果が成果となって現れたのではないかと考えられる。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の結果の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-2.1pt、算数±0であった。国語においては「意外」を漢字で書く問題の正答率が非常に低かった。読書を進めたり、漢字練習等の基礎学力定着の充実を図ったりする必要がある。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の結果の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+2.2pt、算数+1.3ptであった。算数においては図形分野が課題で、特に自分の言葉や数を用いて説明することに課題が見られた。日頃から「なぜ」を説明させる授業展開の工夫をしていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	学力調査における質問紙項目の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」については80%以上の児童が肯定的に回答し、一定の成果を収めた。一方で、「自分の考えを発表することについての設問が肯定的な回答が65%と低く、考えを伝える機会や伝えられたことを認める機会を増やす等の工夫改善を図りたい。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	R4年度さいたま市学習状況調査の結果より国語「思考・判断・表現等」において+4pt、算数「知識・技能」についても+1.2ptの結果となった。市の平均と比較してもどちらの教科においても平均を上回ることができた。項目別に見てみると国語「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」に課題がみられる。読解力向上を意識した指導を今後より進めていく必要があると考えられる。	小4	R4年度さいたま市学習状況調査の結果より国語「思考・判断・表現等」において+1pt、算数「知識・技能」についても+2.5ptの結果となった。市の平均と比較してもどちらの教科においても平均を上回ることができた。項目別に見てみるとどの項目においても平均を上回ることができた。その中で国語「我が国の言語文化に関する事項」について数値が低かった。言葉に関する指導を継続していく必要があると考えられる。
小5	R4年度さいたま市学習状況調査の結果より国語「思考・判断・表現等」において+0.7pt、算数「知識・技能」についても+1.6ptの結果となった。社会についても全体的に前年度を上回る数値となったが、理科に課題があることが分かった。特に「粒子」「生命」の分野に関して数値の低さが目立つ。基礎的な内容の定着を図ることができるよう積み重ねの指導を継続していきたい。	小6	R4年度さいたま市学習状況調査の結果より国語「思考・判断・表現等」において-0.3pt、算数「知識・技能」についても+0.5ptの結果となった。市の平均と比較すると全体的に低い項目が多くみられた。理科に関しては多くの項目で平均を上回ることができたが、国語・算数・社会は平均を下回った。特に社会科については課題となる項目が多く、知識の定着を図りつつ、児童の主体的な学びとなる授業の展開を目指していく必要があると考えられる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし